

(参考資料)

盆踊り（お祭り）をテーマとする被災地の文化復興支援事例

1. 「やりましょう 盆踊り」プロジェクト 《直接的支援》

震災を報じてきた河北新報社が震災翌年にスタート。年に3～5か所程度、希望する集落に対して盆踊りの開催をバックアップし、自立的再生を支援。プラス首都圏からのこども浴衣送付支援など。

※活動情報:FBページ「やりましょう 盆踊り」



(2017.8 気仙沼市唐桑町)

2. 「東日本大震災復興支援 岩手郷土芸能祭 in 鎌倉」 《双方向関係づくり》

鎌倉のNPO団体が、津波で流された祭具や楽器の寄付を通じて現地のお祭り復興を支援 ⇒鎌倉建長寺での上演が定着。ことし5年目開催予定。

3. 映画(2018 公開予定:沖縄在住の映画監督) 《マージナルな問いかけ》

ハワイ・マウイ島では、双葉町出身の戦前日系移民の盆踊りが今も踊られている。コミュニティの将来に揺れる双葉町に、100年ぶりに盆踊りが里帰りする。

4. 映画「SHIDAMYOJIN 羊齒明神」 《音楽・映画による問いかけ》

福島県出身のミュージシャンが、いわき市・志田名集落での盆踊り復興支援をきっかけに音楽の原点を探る。

※本年5月より公開。愛知県豊田市・「橋の下世界音楽祭」でプレミア上映後、東京、大阪、神戸、京都、名古屋と上映を継続中。以後も、韓国国際映画祭、広島、仙台、福島、新潟での劇場上映を予定している。また、ライブハウスでの上映も行っている。

※次ページに制作者からのコメント。添付のチラシも参照。

※活動情報:FBページ「SHIDAMYOJIN」

★映画『SHIDAMYOJIN(しだみょうじん)』を公開して★ 2017/8/5

『SHIDAMYOJIN』を製作する発端となった、福島県いわき市の志田名地区。原発事故によって放射線量の高い土地となった場所で、2015年8月15日の終戦記念日に40年ぶりの盆踊りが復活しました。映画制作はこの祭りを中心に進めていきましたが、真の意味できっかけとなったのは、本作の監督・音楽家である遠藤ミチロウ氏（福島県二本松市出身）が、震災後、浪江町の仮設住宅で行われた盆踊りに参加し、そこで感じたことにあります。そして、新バンド「羊齒明神」が結成され、この作品が生まれました。

私は、志田名地区の盆踊り撮影に関わったことが縁で、本作のプロデュースを買って出ました。各地での上映を通じて、遠藤ミチロウの“音楽映画”を観に来たつもりのお客様（ファン）が、原発事故や、震災復興、高江の基地問題を自然と意識していく場面に何度も遭遇しました。今この社会で起きている出来事、その問題に対して、映画に触れることで気づき考える瞬間があります。そしてその小さな体験が、ときに声を上げるきっかけになることもあります。あまりに過酷な現実を前に、怒りとは別のところから生まれてくる感覚。今回、その感覚を共有する現実的な場として、“盆踊り”はとても有用なのだと強く感じました。「映画」や「音楽」を通しゆるやかに芽生えてくる感覚について、本作の上映をしながら今も考え続けています。

—— プロデューサー 藤田功一

湘南盆踊り研究会 柳田尚也

(HP)www.bonodori.net

(email)h.yanagita@icloud.com